

第2日 3月10日(水)②

■第3分科会

8F…開発研究所

『地域MICEの可能性—MICEイヤーに向けて』

2010年MICEイヤー。世界に向けて「MICE日本」を大いにアピールしようとするこのとき、地域では実際何ができるのでしょうか。展示会、インセンティブツアー、ビジネスミーティングなど、これまでの「コンベンション」に何を加え、どう取り組んでいくのか。その可能性を探ります。

【コーディネーター】

北見 幸一 (きたみ こういち)

北海道大学大学院

メディア・コミュニケーション研究院 准教授

1972年生まれ、松本市出身。博士(経営学)。立教大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程修了。(株)電通PRでの広報・PRの実務経験(10年)、2007年北海道大学助教を経て、09年より現職。大学院国際広報メディア・観光学院で国際広報論分野を担当。電通PR時代には、2002年FIFAワールドカップ日本組織委員会(JAOC)に出向し、国際イベント運営を経験。09年から北大東アジアメディア研究センター員として東アジアの広報問題にも取り組んでいる。09年「創造都市さっぽろ産業活性化研究会」委員。専門は経営学、広報論、マーケティング戦略論、ブランド戦略論、地域振興論、企業評価論。



【スピーカー】

浅井 新介 (あさい しんすけ)

MPI (Meeting Professionals Int'l) Japan 会長

1952年生まれ、東京都出身。1976年立教大学社会学部観光学科卒業。MICEプランナーとしてイタリアへの視察を皮切りに、30年に渡る業界の経験を持つ。Westin Hotels 極東地区営業支配人、ユナイテッド航空代理店法人営業部長、日本地区旅客営業部長等を歴任。宮崎のシガーセールスマーケッティングの責任者として、Amway Korea 7,500名、ICFTU(国際フリー・トレード・ユニオン)世界大会など海外よりのMICEビジネスのみならず、国内の多くの数千名規模のMICE獲得とその受け入れに成功し、リゾート再生に貢献する。現在MPI Japanの会長として我が国のミーティング・ビジネスの発展を目指す活動をしており、国際ホテル会社、コンベンション・ビューローの依頼により、講演、ワークショップ等で毎日MICEビジネスの普及活動に取り組んでいる。ミーティング・ビジネスのリーダーを育成するためにMICE ACADEMYを主催、07年より「MICE Plus Institute」を創立。



加藤 伸泰 (かとう のぶやす)

松島国際観光(株)ホテル松島大観荘

(宮城県松島町)営業部販売課長

1958年生まれ、仙台市出身。77年仙台育英学園高校卒業(株)日本旅行入社。福島県郡山旅行センター、仙台支店、宇都宮支店、山形県鶴岡支店に勤務、鶴岡支店では庄内地区行政観光機関協力のもと仙台商圏顧客層をターゲットに仙台発着バスツアーを企画、運営してシリーズ化に成功する。2007年ホテル松島大観荘に出向、営業部販売課長として国際会議の誘致、受け入れに取り組みながら松島、宮城、東北各地MICEの可能性にも関心を持ち、セールス活動をしている。



会場：北海商科大学

生井澤 幸雄 (なまいざわ ゆきお)  
社団法人大阪国際見本市委員会  
理事・事業部長



1955年生まれ、神戸市出身。大阪外語大学(現大阪大学外国語学部)フランス語学科卒。80年社団法人大阪国際見本市委員会入会。業務部で外国関係を担当後、「空港エンジニアリング展」、「インターフェス展」の創設開催業務担当。95年に財団法人アジアクラブの交流促進事業であるアジア・アーチャー・アーチャー招待で、上海、香港、ホーチミン及びシンガポールの4都市を訪問、その見聞を「見本市・コンベンションは都市の個性になりえるか」に纏める。2008年4月から現職。現在の担当事業は「大阪モーターショー」、「地域防災防犯展」、「ニューアース(環境対策技術展)」等。

11:30 総括

3F…305教室

■分科会報告

各分科会コーディネーター

■講評

石森 秀三 日本コンベンション研究会 会長

閉会

エクスカーション(オプション)

参加申込みをされた方は1F玄関前にお集まり下さい。

12:15

12:30

【主催】日本コンベンション研究会

【主管】財団法人札幌国際プラザ、  
NPO法人コンベンション札幌ネットワーク

【後援】国土交通省観光庁、北海道運輸局、北海道開発局、  
北海道経済産業局、北海道、札幌市、  
日本政府観光局(JNTO)、  
一般社団法人日本コンクレス・コンベンションビューロー(JCCB)、  
日本コンベンション事業協会(CPA)、  
社団法人北海道観光振興機構、  
社団法人札幌観光協会、  
札幌市内ホテル連絡協議会

【協力】地球環境基金

国際観光コンベンションフォーラム  
2010 in SAPPORO

PROGRAM

MICEとは何か。  
地域から考え、  
地域から発信する。

新たなMICE  
をデザインする



3月9日(火)～10日(水)

会場：北海商科大学

第1日 3月9日(火)

13:30

■全体会議

3F…305教室

開会あいさつ

石森 秀三 (いしもり しゅうぞう)

日本コンベンション研究会 会長(北海道大学観光学高等研究センター長)

地元歓迎あいさつ

梶原 隆 (かじわら たかし)

札幌市観光文化局長

13:40

基調講演 Green Convention Forum 2010  
『世界の潮流—環境配慮型コンベンション』

コンベンションの「グリーン化」は、世界の潮流です。「グリーン・ミーティング」という新たなコンセプトに積極的に取り組み、世界をリードしている米国ポートランド発祥の国際的機関の代表が、環境配慮型コンベンションの現状について報告します。

エイミー・スパトリサノ (Amy Spatriano)

GMIC (Green Meeting Industry Council) 会長

公認会議業務管理者。英国規格協会による持続可能なイベント規格BS 8901が認定する「環境配慮型会議運営管理」のコンサルタント会社Meet Green®の代表を務める。持続可能な会議・イベントの管理分野における国際的リーダーとして、2007年のLive Earth Global Green Teamで活躍し、08年にはMeeting News Magazineにより、会議運営業界の最もパワフルな人物トップ25に選出された。またCorporate Meeting & Incentivesにも、09年の成長著しいグリーン・リーダーとして取り上げられ、Tradeshow Week にも09年のエコ・リーダーとして認められている。GMICの共同創設者であり、現在はその会長職。APEX Green Meetings and Events Practice Panel Green Meeting Standardsの議長を務めている。地球規模報告イチシアチブ(GRI)の作業グループにおいても活躍中。著書に「Simple Steps to Green Meetings and Events」(共著、日本語訳「環境にやさしい会議・イベントの進め方」、コンベンション札幌ネットワーク編集)。

15:10

パネルディスカッション

『新たなMICEをデザインする』

なぜ今、MICEなのか。それは日本の集客交流産業振興の中でどう位置づけられるのか。そしてその中で地域は何をすべきなのか。観光庁の担当官、コンベンション振興に取り組む民間実務家を招き、MICEという概念から集客交流産業を再定義します。

【コーディネーター】

小磯 修二 (こいそ しゅうじ)

釧路公立大学学長

1948年生まれ、大阪市出身。京都大学法学部卒業、北海道開発庁(現国土交通省)等を経て、99年6月より釧路公立大学地域経済研究センター長、2008年4月より同大学学長。地域政策研究の分野において、内外の研究者、行政官、民間人を機動的に集め実践的に地域課題に応える研究プロジェクトを展開。また、中央アジア地域等で地域開発分野での国際貢献活動にも従事。北海道観光審議会会長、北海道エネルギー戦略会議座長、北海道市町村合併推進審議会会長他多数。著書に「戦後北海道開発の軌跡」(北海道開発協会)、「地域自立の産業政策」(イマジン出版)他。

17:20

研究(ポスター)発表

18:30

交流会

北海学園大学キャンパスレストラン「コスモス」

北海学園大学教育会館内

会場：北海商科大学

第2日 3月10日(水)①

9:00

ラウンドテーブルミーティング

実務家、有識者、研究者の議論にフロア参加者も加わり、課題に迫ります。

■第1分科会

4F…403教室

『韓国コンベンションの飛躍—日本が学ぶべきもの』

MICEコンセプトを国家戦略の主柱においてシンガポールを筆頭に、世界のコンベンションセンターを目指して躍進する東アジア。とりわけ韓国の著しい成長が注目を集めています。今、韓国に何が起きているのか。韓国の事情に精通した実務家を招き親しいライバルの動向を探りつつ、世界地図の上で地域のコンベンションを考えます。

【コーディネーター】

水野 俊平 (みずの しゅんぺい)

北海商科大学商学部教授

1968年生まれ、室蘭市出身。天理大学朝鮮学科卒業、全南大学校大学院国語国文学科博士課程修了。同大学講師などを経て2006年より現職。著書に「韓国の若者を知りたい」(岩波書店)、「韓国の歴史」(河出書房新社)、「百濟語百濟漢字音研究」(亦樂)他。北海道地域限定通訳案内士でもある。



【スピーカー】

太田 正隆 (おおた まさたか)

株式会社ICSコンベンションデザイン

コンベンション総合研究所 所長

1954年生まれ、東京都出身。明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒、同大学院博士前期課程修了、政治学修士。日本コンベンション研究会、日本観光研究学会、日本都市計画学会所属。81年(株)ICSコンベンションデザイン入社。国際会議、トレードショー、企業セミナー・イベント等多岐に渡る分野の企画・運営に従事。2000年よりコンベンション総合研究所主任研究員、マーケティング部長を経て03年より現職。専門はコンベンションマネージメント、コンベンションマーケティング、MICE等を通じた集客・交流サービス、地域振興等。日本コンベンション事業協会事務局長、東京観光財団コンベンション委員他。日本コンベンション研究会幹事。



東條 秀彦 (とうじょう ひでひこ)

MPI Japan 理事／

(社)韓国コンベンション産業協会諮問委員

1957年生まれ、千葉県出身。旅行会社勤務を経て、1991年より財団法人ちば国際コンベンションビューローに勤務。コンベンションビューローにおいて誘致・支援・企画・広報・総務の全課の業務を経験する。99～2000年国際観光振興会(現国際観光振興機構)へ出向し、海外コンベンション誘致部において国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。05～07年、日本コングレス・コンベンションビューロー活性化委員。08年より(社)韓国コンベンション産業協会諮問委員。09年観光庁「国際交流拡大のためのMICE推進方策検討会」委員。日本コンベンション研究会幹事、09年よりMPI Japan 理事。世界エネルギー会議、ASEM経済閣僚会議、Networld +Interop、MDRT Experience、日韓経済人会議などの誘致・支援に携わった。



■第2分科会

4F…405教室

『学びと観光—北海道からの発信』

社会の成熟化が進む中、従来の「周遊型観光」から人や文化などの出会いを通じた自己実現を目指す「目的型観光」へのシフトが見込まれています。新たな観光創造の戦略として、縄文文化やアイヌ文化など北海道の文化や歴史、有珠山ジオパークなどの自然資源、ワイン、炭鉱資源などを題材に、地域資源を目的型の観光資源としてどう活かしていくかを考えます。

【コーディネーター】

吉岡 宏高 (よしおか ひろたか)

札幌国際大学 観光学部 観光経済学科 准教授

／まちづくりコーディネーター



1963年生まれ、北海道三笠市出身。福島大学経済学部卒、札幌学院大学大学院地域社会マネジメント研究科修了。(株)たくぎん総合研究所主任研究員などを経て、97年にまちづくりコーディネーターとして独立。みずから市民活動を展開する一方、2004年からは札幌国際大学で地域資源を活用した地域内外の交流による地域活性化についての研究・教育活動を行っている。NPO法人炭鉱の記憶推進事業団理事長、NPO法人霧多布湿原トラスト理事。道央地域観光戦略会議会長、産業観光検討会議委員長、空知産業活性化戦略会議委員長など公職を多数歴任。

【スピーカー】

大島 直行 (おおしま なおゆき)

伊達市噴火湾文化研究所所長



1950年生まれ、釧路管内標茶町出身。医学博士。東洋大学文学部史学科卒業。74年札幌医科大学研究生として、人類学・解剖学を学ぶ。75年千歳市職員として新千歳空港用地内の遺跡発掘調査、78年札幌医科大学助手となり人類学・考古学の研究を行う。95年伊達市の職員となり、史跡北黄金貝塚の整備や遺跡調査などの文化財保護、芸術や学術分野まで幅広い総合文化行政に取り組む。教育委員会主幹、カルチャーセンター館長、文化財課長等を経て2005年より全国に先駆けて設立された市立の「文化研究所」の初代所長。日本考古学協会理事、北海道立アイヌ民族文化研究センター運営協議会委員等役職多数。97年第18回北海道新聞社学術文化奨励賞受賞。2001年第57回日本人類学会大会長、04年第29回藤森栄一賞を長野県考古学会より授賞。

千石 涼太郎 (せんごくりょうたろう)

作家・エッセイスト



1964年生まれ、小樽市出身。出版社勤務、旅行作家、アウトドア雑誌編集長等を経てエッセイストに。地方文化や県民性、食文化や旅、そして北海道を主なテーマとして執筆している。現在は作家としてだけでなく、「北海道ワインツーリズム」推進協議会会長、小樽ふれあい観光大使として、移住者向けの講演や市民大学講座の講師、企業向けの講演や観光・地域振興についての講演を行い、北海道の活性化に努めている。著書に「やっぱり北海道だべさ!!」(双葉社)、「なまら北海道だべさ!!」(双葉社)、「県民性交際術」(小学館)、「酒飲みのための魚のはなし」(朝日ソノラマ)等著書多数。